

課題集約の内容（各区）

○介護予防

- ・口腔内歯科無料検診の年齢対象拡大（65歳以上から）で、『たべる』の啓発の推進。
- ・地域活動の再開も必要である。
- ・オンラインの活用など安全・安心な介護予防活動の多面的な検討。
- ・コロナ禍でも3密を避けて、高齢者が活動できる場づくりが必要である。
- ・市独自の介護予防支援アプリの活用等の検討。
- ・介護予防等の正しい情報を、リアルタイムに届けるしくみが必要。
- ・受診を控えている高齢者に、必要な医療を受けることができるシステムの検討。
- ・自粛生活で、身体機能の低下、認知症の悪化、熱中症の増加。
- ・医療機関の受診や介護サービスの利用にも影響があり。

○新しい生活様式における市民への情報発信・啓発方法の検討
【ICTの活用】

- ・高齢者が利用可能なツールの検討。
- ・地域の新たな取り組み（好事例）をタイムリーに発信する方法を検討
- ・スマートフォンの高齢者への普及率の増加が予想されるため、介護予防支援アプリの活用等の検討。
- ・コロナ禍における高齢者の健康状態やネット利用状況等の調査を行い、実態に応じた対策を実施。

【効果的な情報伝達方法】

- ・新型コロナウイルス感染症に関する行政や関係機関の方針について、地域に情報提供するための仕組みづくり。
- ・新型コロナウイルス感染症、介護予防等に関する正しい情報を、リアルタイムに届けるしくみが必要。
- ・関係機関同士で情報の共有を行ない、連携することも重要。
- ・正しい情報を伝えることが必要であり、個別訪問やパンフレット配布など様々な媒体を用いて情報提供を行う。
- ・高齢者が普段よく目にするもの（例えば葉袋など）を情報提供の媒体として活用。
- ・自宅、災害時も含めて、必要な情報が届けられるような工夫が必要である。

○見守り支援

- ・医療・介護の関係機関の連携体制の構築の推進。
- ・高齢者（独居高齢者）の見守りに関する家庭訪問等の取り組みと支援。
- ・夜間に保護した認知症高齢者や独居高齢者の引継先の確保。
- ・近隣との交流が減り、単身高齢者の孤独死にもつながっている。
- ・感染症対策に留意しながら、安否確認を実施する必要がある。
- ・自粛による養護者の介護負担の増加、ストレスによる家族関係の悪化。

○感染予防

- ・高齢者自身や養護者が感染した際の対応方法
- ・感染した際の対応のシミュレーション等、事前に確認しておく。

【テーマ】「コロナ禍の中での介護予防活動の現状と課題」

課題	今後の取組内容
（1）自粛生活で、身体機能の低下、認知症の悪化、熱中症が増加している状況の中、コロナ禍でも3密を避けて、高齢者が活動できる場づくりが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの活用など安全・安心な介護予防の取り組みを検討する。 ・オフラインでの感染対策に留意した介護予防に取り組む。 ・高齢者自身のセルフケアの意欲が向上するような取り組みを推進する。
（2）新しい生活様式における高齢者への情報発信・啓発方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が利用可能なツールを検討する。 ・スマートフォンの高齢者への普及率の増加が予想されるため、アプリの活用等の検討をすすめる。 ・コロナ禍における高齢者の健康状態やICTの利用状況等の調査を行い、実態に応じた対策を検討する。 ・個別訪問やパンフレット等様々な媒体を活用して情報提供を行う。
（3）自粛や近隣との交流が減り、単身高齢者の孤独死、介護負担の増加、ストレスによる家族関係の悪化につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護等の関係機関が連携して見守り支援ができるよう、体制の強化に取り組む。 ・高齢者（独居高齢者）の見守りに関する家庭訪問等の取り組みと支援。 ・感染症対策に留意しながら、安否確認を実施する。
（4）高齢者自身や養護者が新型コロナウイルス感染症の疑いが発生した際の対応方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の疑いが発生した際の対応や支援について、関係機関等の取り組みを共有し推進する。 ・感染疑い発生時の対応について、各関係機関がフロー図等を活用して事前に確認する。

